
two love

Y S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

two love

【著者名】

ZO888D

【あらすじ】

これを読む前に自分の大切を思い浮かべて下さい…。読み終わつた後に大切な人と向き合つてもう一度向き合つてみて下さい。

two love

翔と出会ったのは5ヶ月まえでした。

仕事場の友達の紹介してもらつた元カレの大親友でした…。

私が敬太（元カレ）19歳と付き合い始めたのは今から5ヶ月まえでした。

敬太とは最初はメールだけだつたけど話しが合つて気が合つたので付き合おうかみたいな感じになつて付き合いました。

敬太は仕事が忙しくて日曜日しか会えなかつた。

でも別に寂しいとかそういう感情は全然なかつた。

敬太と付き合つて2ヶ月目くらいにダブルデートしようかつて話しへなつて、夜の9時位に公園の前で待ち合わせをした。

敬太や相手のカップルはすでに到着していたが、時間にルーズな私は30分くらい遅刻した。

敬太に

「おせーよ！」と怒られた。

「ごめんごめん笑」と私は笑つてごまかした。

敬太が相手カップルの紹介をした。

それが翔だつた。

敬太は翔の方に指をさして

「こいつは翔！俺のダチ！－」と

紹介した。

私はなにも言わず頭を下げた。

そして翔の彼女の方にも頭を下げた。

翔の彼女は私より一つ下の16歳だった。

翔は敬太を紹介してくれた友達のお兄さんだった。

翔の妹と仲良しな私は妹から翔のことあんまり良い風には聞かなかつた。

もと暴走族の総長だつたとか、

女とは真面目に付き合わないでやつたらその日で捨てるとか…。

私の中の翔のイメージは最悪な男！！だつた。

その日以来敬太とデートは翔の家に行く事になつた…。

でも話してゐるうちに翔がそんなに悪い人には思えなくなつてきた。

話してて凄く楽しかつた。

いつのまにか翔の家に行くのが楽しみになつてた…

敬太と話してて翔の話するとめっちゃ怒られた。。。。

それでもやめられやかつた。

私は次第に翔に惹かれていつた…。

私は決断した。

敬太を呼び出した。

敬太は

「どうしたの？珍しいやん！」

と言つた。

私は

「別れよう…。敬太の事は好きだけどそういう対象では見られない。

」

沈黙が続いた…。

敬太は怖い口調で

「なんでや？？言えよ」と言った。

私は
「好きな人が出来たの。」と答えた。

敬太は

「翔か？？」と言った。

「うん…」私は静かにうなずいた。

敬太はこのままで済むと思うなよと言つて帰つて言った…。

私は凄い恐怖を感じた。

でもなにがあつても翔の事好きな気持ちは変わんない。

敬太と別れて1週間後の土曜日、私は翔の妹の由紀子にCDを貸す約束していた。

でも由紀子は携帯が止まつていて連絡が取れなかつた。

諦めてたその時、知らない番号から電話がかかつて來た！
出てみると翔の声だつた！！

翔が

「今日由紀子と遊ぶんだよね？由紀子携帯止まつてるから俺が電話かけたんだけど。」

私は今すぐ行くと言つてすぐに出かけた。

家に着くとそこには敬太の姿もあつた…。

私はどうしよと思いながらも座つた。

敬太と翔は仲良くゲームをしていた。

私は由紀子のベッドで一人がやつてるゲームを見ながら寝転んでた。

と、途中で翔がベッドに座つて来た！－私はドキドキしていた。

翔はいきなり手を握つてきた…。

敬太がいたので掛け布団で繋いでる手を隠した。

私はなんの抵抗もなく手を握り返した…。

例えこれが遊びだとしても幸せだつた…。

翔がトイレに行つて来ると言つて席を外した、その瞬間、敬太が手を握つてきた。

敬太は

「やつぱり別れたくない！－俺はお前しかいないんや」と言つてきた。

そこに翔が戻つて來た！！

翔は私と敬太が手を繋いでるのを見て血相を変えた。

翔は私と敬太の間に割り込んできた。

敬太は手を放した。そして翔はまた手を握つてきた。

今度はさつきより倍強く握つてきた。

夕方くらいになると敬太は用事があるからと言つて帰つていった。

私も帰ろうとしたら翔が

「今日泊まつていって」と言つた。

私はびっくりしたけど迷いはなく、

「うん！泊まつていいく！」と言つた。

私と翔は自動販売機に向かつた。

私は敬太と別れた事を翔に話した。

翔は

「知つてる」と言つた。

そして

「これからは俺がお前のそばにいてやる」と言つてくれた。

嬉しかつた…。

今まで女の子を使い捨てしてきた最悪な男の子が私を初めて女として見てくれて本当に嬉しかつた。

そして私と翔は付き合い始めた。

毎晩毎晩翔からの電話が嬉しかつた。

ちょっとと私からの返事が遅いとなんかあつたのかと思つて何回も電話をかけてきたり……笑

そしてすぐ私の事馬鹿にする。

「恵里佳は馬鹿だからな～俺がいないとなんにも分からぬやろ～

? ? 笑

しうがないから死ぬまでそばにいてやつてもいいよ??」なんて言ひ。

本当に翔が大好き!!!!!!

「これからもそばにいてね!!!」

「え～、まあしうがないから一生一緒にいてやるつ～～！」

この幸せが続くと思つていた……

ある日、いつも通りに仕事に行く。

リーダーさんから新しいバイトの子が入つたと聞かされた。
どんな子かなあ～??と楽しみにしていた。

敬太だつた！！

私はびっくりした。ビックして敬太がここにいるの!?

私は敬太を避けた。

仕事は夜10時に終わつた。

私は歩きで家まで帰る。

後ろから誰か付けてくるーー！

私はおもいつきり走つて逃げたーー！

でも無理だつた。捕まつてしまつた。

私は降りきろうとした、力が強くてふりほどけなかつた。

相手の顔を見た。

敬太だつた！！！！

私はそのまま押し倒されてやられた。

なにが起こつたのか分かんなかつた……

私は翔に電話をかけていた。

「恵里佳？？どうした？」

翔の優しい声だあ……。

私は泣くしかなかつた。

「『めんね』『めんね』……」しか言えなかつた。

「今何処だ？」

「仕事場の近く……」

「今から行くから、そこから動くな！

絶対動くなよ！」

翔はバイクですぐに来てくれた。

そして私を強く抱きしめてくれた……。

翔の目からは涙が流れていた。

「『めんな、守つてやるつて約束したのに、本当に『めんな。俺彼

氏失格だな』私は

「そんな事ない！！翔は彼氏失格なんかじゃない！全部私が悪いの
！！だから翔が悪いんじゃない！翔が悪いんじゃない！」

私は必死に泣きながら叫んだ。

翔キスをしてくれた。

「帰ろっか」

「うん」

翔は家まで送つてくれた。

次の日。

翔から電話がきた。

「昨日恵里佳送つた後敬太に会いに行つた。次恵里佳に手を出した
らただじやおかないからつて言つといた。
だからもう安心していいから。」

「アリガト。あの事はもつなかつた事にしよ。お互に辛いし……」

「わかつた。

俺恵里佳が好きだー！」

「なによいきなりー恵里佳もだよ

「うん、分かつてる だから絶対結婚しよーなーー！」

「絶対だよーー約束だからねーー！」

「おうーー約束なー指切りげんまん嘘ついたうー

「

「はりせんぼんのーます

「

二人で笑つた。
楽しかつた。

翔はいつだつて恵里佳の事考えてくれた
幸せだつた

ある日の午後5時17分

今でも忘れる事のない時間

私に一本の電話が入つた。

翔のお母さんからだつた。

翔がバイクで帰る時にトラックに接触して今病院に運ばれて意識不明だと

私は目の前が真っ白になつてその場に立ちすくんだ。

座つてる暇はない。病院に行かなきや
病院に。。。。私は慌てて家を出た。

タクシーを拾つて病院に急いだ。

この時私はタクシーを初めて遅いと感じた。

病院に着いた。

翔はすでに息をしていなかつた…。

私はすぐに翔の手を握った。

眠っているかのような穏やかな顔している。

「翔早く起きてよ～。いつまで寝てるの？？」

問いかけても返事はない。

体を揺すっても反応がない…。

「なんで起きないのよ～！～！」

早く起きてよ～！起きていつもみたいに恵里佳の事抱きしめてよ～…。

翔の声聞かせてよ～！～目開いて私の事ちゃんと見てよ～…

一生一緒にいてやるつて言つてたじょん！～幸せにしてやるつて…結婚しよつて約束したじょん！

二人で指切りげんまんしたじょん！～！

恵里佳には翔がいないとダメなんでしょ？？

翔、恵里佳にそういうたよね？？

恵里佳これからどうすればいい？？

ねえ答えてよ～！」

結局最後まで翔は目を開けることはなかつた…。

翔のお葬式が終わつた後翔のお母さんに呼び出された。

そしてクシャクシャな小さい箱とクシャクシャの手紙を渡された。
開けてみると綺麗なネックレスが入つていた。

「なんですかこれ？」と訪ねた。

「翔があなたとの記念日だからって言つて買いに行つたものよ。その帰りに……お母さんは声を震わせて涙を拭つた。

そして

「翔みたいな子を好きになつてくれて本当にありがとうございます。翔も凄い幸せだつたと思うわ。これからも翔の事忘れないであげてね」

私は涙で言葉が出なかつた。

帰り道私はいろんな事を思い返した。

この道翔と手を繋いで歩いたなあ。

今でも翔が隣にいるような感じがした。

翔に会いたい翔に会いたい！！

私は翔のお母さんからもらつたクシャクシャの手紙を思い出した。

手紙を開けた。

恵里佳へ

今日は俺と恵里佳の記念日だよなっ！－3ヶ月－！

あつといつ間だつたな！

そしてこれからも一緒にいような－－

ずっとずっと俺が幸せにしてやる。

だから結婚してくれ！！約束だからなーこれお前に似合つと思つて
しうがねえから買つてやつたよ！

毎日毎日毎日つけろよ！

つけねえと怒るからな！！笑

恵里佳本当に愛してる

翔より

私は自然と涙が溢れていた。涙で文字がにじんだ。

翔の馬鹿…

恵里佳だつて翔の事本当に愛してるよ。ありがとう

翔といった時間はかけがえのない時間でした。

いっぱいいっぱい幸せをありがとう…

いっぱいいっぱい抱きしめてくれてありがとう…

初めて好きになつた相手…

初めて重なつた相手…

初めて手を繋いだ相手…

そして私に初めて愛する意味を教えてくれた人……。

翔の事は絶対絶対絶対に忘れない。

だから翔も天国に逝つても恵里佳の事忘れないでね…。

また生まれ変わつても恵里佳の事好きになつてね。

本当に本当に何回言つても足りない位に大好きだよ。

本当に幸せでした…

アリガト…サヨナラ…

そしてこれからも永遠に愛してる。
私の心中に翔はずつと生きつづけてる。

私は翔からたくさん数えきれないほどの大切な事を教えてもらいました。

私は翔がいたから、笑顔になり、人に優しくなれて、素直になれて、人を心のそこから愛せる事ができました。

みなさんも一度大切な人と向き合ってみてください。

私はこれからも生きづけます。

これから先どんな事に衝突するか分からないけど、私は翔に教えてもらつた事を活かして生きていきたい。

天国の翔へ…

こんなワガママな恵里佳の事愛してるって言つてくれてアリガト…
いろいろ教えてくれてアリガト…

たくさんの愛をありがとう

もし願い事が一つ叶うなら、私はもう一度翔の笑顔が見たいです。

翔会いたい……

また会えるよね？

君は今笑つてますか？？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0888d/>

two love

2010年12月7日02時11分発行